

第四次長野市総合計画
基本計画

平成19(2007)年度～平成23(2011)年度



©(財)ながの観光コミュニケーションセンター

基本計画

序

第四次長野市総合計画 前期基本計画について

1 前期基本計画の目指すもの

基本構想に掲げる理念や政策の実現に向け、それを具体化する施策を体系化して市民に分かりやすく示すとともに、行政全体の経営管理の道具(マネジメントツール)として活用できる基本計画を目指します。

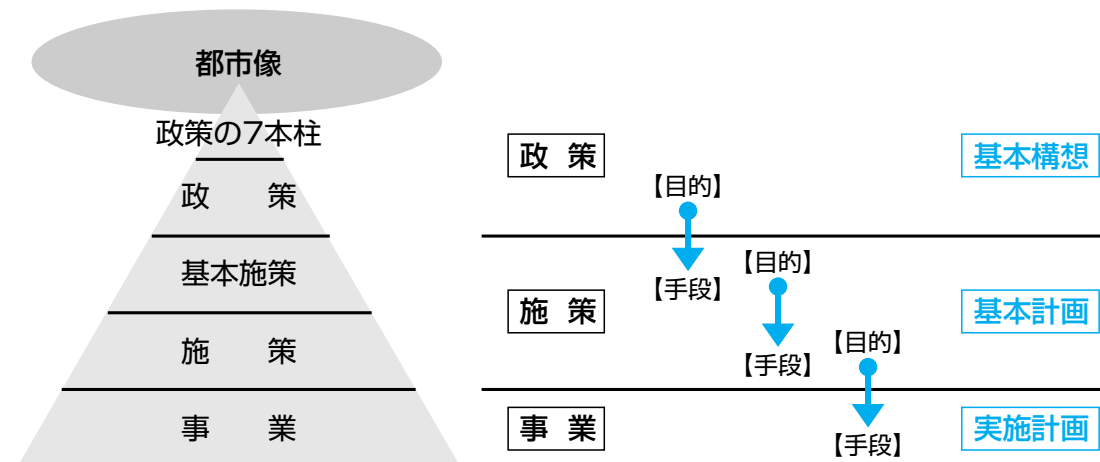
2 主な特徴

(1) 施策の「目標」と「指標」を設定

- ◇44基本施策とその下の101施策ごとに目標を明記しました。これにより、何を目標としてまちづくりをするのかを市民と共有するとともに、市職員の目的意識の向上を図ります。
- ◇基本施策には市民アンケートによる指標を設定し、総合計画に基づくまちづくりに市民の評価の視点を導入します。
- ◇101施策に159指標を設け、施策の進捗を計る一つの目安とします。
- ◇基本計画を基にして、毎年度の目標管理・施策評価・予算配分など行政の経営管理との連動を図り、PDCAサイクル(計画→実行→評価→行動)による施策・事業の効率化や重点化を図ります。

(2) 基本構想の方向性を施策レベルまで分かりやすく体系化

- ◇都市像の実現に向けて、政策・施策・事業のつながりを分かりやすくしました。(都市像→政策の7本柱→政策→基本施策→施策→事業)
- ◇各階層のつながりを目的・手段で明確化し、政策や施策(目的)に向けてどんな事業(手段)を選択・集中すべきかといった行政の経営管理(マネジメント)をしやすくします。



(3) 施策を分かりやすく記載

- ◇施策ごとに番号をつけ、全体体系とのつながりを分かりやすくしました。
- ◇施策の主担当となる部局名や課名を示しました。
- ◇実施計画での具体化に向けて、施策内容を「主な取組」として明記しました。

◆計画の体系化

総合計画	体系化	内 容	数	指標数
基本構想	都市像	まちづくりの最終目標を総合的・印象的に表す。	1	
	政策の7本柱	都市像を達成するためのまちづくりの大局的な方向性・在り方を示す。7つの分野からなる。	7	
	政策	政策の7本柱を構成する個別の政策(大項目)	27	
基本計画	基本施策	政策を達成するための取組の方向性を示す。(中項目)	44	44
		44基本施策中、10重点施策を選定	(10)	(10)
	施策	基本施策を構成する個別の施策で、日常業務の最小単位の目的となる。(小項目)	101	159
実施計画	事業	日常の取組や業務。施策を達成するための手段となる。(細項目)		

3 計画の体系



「善光寺平に結ばれる」人と地域がきらめくまち「ながの」

4 基本施策のアンケート指標について（基本計画第2編、第3編）

0 行政経営の方針【行政経営分野】

政策 0-1 役割分担と協働によるまちづくりの推進

基本施策 011 **市民とともにつくる 市政の実現** 主担当 総務部

方針（基本施策の目指すもの）

行政の透明性と公平性を高めるとともに、市民と行政の協働により、市民一人ひとりが参加している意識や実感が持てる身近な市政を目指します。

アンケート指標（市民が思う割合）	現状値(H18)	目標値(H23)
市民の意見を取り入れて、市民と行政が協力したまちづくりが行われている	24.1%	25~50%

アンケート指標

現状値；市民アンケートの有効回答のうち「そう思う」「ややそう思う」と答えた市民の割合を表示しました。アンケートは毎年実施します。

目標値；現状値を下表のとおり4区分し、少なくとも一つ上位の区分を目指すように目標を設定しました。なお、アンケートで半数以上の市民が肯定的に評価する50%を一定の満足基準とします。

現状値の区分	H23目標値の表記	考え方
70%以上	70%以上	高い評価を今後も継続していく
50%以上～70%未満	70%以上	一定の評価を受けるが更に上位を目指す
25%以上～50%未満	50～70%	市民の半数が肯定的に評価する50%以上への到達を目指す
25%未満	25～50%	評価や理解が低く少なくとも一段上への改善を要す

◆アンケート結果の概要は資料編に掲載しています。